すべての女性が輝く明日のために

JAUW会報

第268号
2019年11月

一般社団法人
大学女性協会

JAPANESE ASSOCIATION OF UNIVERSITY WOMEN

特集1 全国公開セミナー　特集2 GWI 総会・100周年記念大会

全国公開セミナー…… 2〜3

GWI 総会・100周年記念大会 …… 4〜6

文化交流委員会・留学生との交流会…… 7
奈良支部・大分支部

J カフェ報告、Goodman 教授の会報調査報告… 8〜9
2019年度国際奨学生来日報告、募金報告

2020・2021年度役員候補者推薦依頼 …… 10
新春のつどい、新入会員
理事会・各委員会からのお知らせ

2019年度　JAUW 全国セミナー

教育・ジェンダー・共生

―あらゆるハラスメントを乗り越えるために―

日時：2019年10月19日（土）13：30 ～ 10月20日（日）16：30
会場：独立行政法人 国立女性教育会館（NWEC）　研修棟2階大会議室

全国セミナーを終えて

企画委員長　**加納　孝代**

今年の全国セミナーのテーマは「教育・ジェンダー・共生」、副題は「あらゆるハラスメントを乗り越えるために」でした。昨年秋以来、乳幼児・児童が保護者によって虐待される事件が頻発し、その背後にDVも指摘され、「ハラスメント」が今日の日本社会の大問題であると感じられつつあったからです。

ハラスメントにはいわゆるセクハラやDVなどの性暴力のほか、職場や教育現場でのパワハラ、障がい者や高齢者や弱者への虐待があり、その様態は多岐にわたります。ボランティアのNPO団体はハラスメントの被害者を守り、その人々が平穏な日常を取り戻せるようにと、精一杯の支援活動を行っていますが、到底間に合いません。他方加害者に厳罰を望む声も強くなっています。繰り返す性犯罪者には「烙印」（スティグマ）を押すべきだと言う人もいれば、それに反対する意見もあります。

誰でも平和な日々の継続こそが幸せの原点だと感じるでしょう。ところがハラスメントをする人は、自分の手でその幸せを破壊しているように見えます。ハラスメントの具体例を見ると、自分で責任をとらず、他人のせいにするなど、多くが当人の人間的未熟さに起因しています。自分が相手より強いことを見せつけたい、人の上位に立って権力（影響力）を振るいたい、人の痛みや悲しみが分からない、自分の行動が結果的に周囲も自分も不幸にすることを先回りして考えることができない・・・。親たちは、社会は、子供をきちんと育ててこなかったのでしょうか。

「異常に乱暴な人」はいつも、どこにもいるものだ、と諦めかけていたところに、もしかしたらそこで「教育」が力を発揮できるかもしれない、との希望が見えてきました。さらには、「自分と人とは同等の価値を持つ存在である」、「自分が人を助けつつ、同時に人に助けられつつ」生きてゆくことが「共生」なのだ、と気付かせるのも家庭や学校や社会での「教育」の重要な目標なのではないか、という気がしてきました。

「教育」と「ジェンダー」と「共生」はこのような形でつながるのではないだろうか、とのヒントが得られた今回のセミナーでした。

プ　ロ　グ　ラ　ム

第一日　2019年10月19日（土）		
開　　会	13:30	**挨拶**　会長　鷲見八重子　　総合司会　副会長　牧島悠美子
発表・報告	13:50～14:20	1.　全国調査（中間報告）―外国にルーツのある住民と多文化共生の取組―
	14:25～14:55	2.　地域でのDV、ハラスメント、性暴力防止にどう取り組むか
	15:00～15:30	3.　岡山市の女性と男性　―ジェンダー統計から見えてくるもの―
	15:50～16:30	4・1.　家庭科教員免許取得志望大学生の学びとジェンダー観
		4・2.　家庭科教員への調査から見える現状と課題
	16:35～17:00	5.　GWIジュネーヴ世界大会参加者による報告
	18:00～20:00	懇親会
第二日　2019年10月20日（日）		
	10:00～12:00	**分科会**（教育／ハラスメント／共生）
	12:00～13:00	昼食
	13:00～13:05	**挨拶**　会長　鷲見八重子　　司会　副会長　加納孝代
	13:05～14:10	**基調講演**　上野千鶴子さん
	14:20～15:20	**リレートーク**　　コーディネータ　副会長　加納孝代
		上野千鶴子さん、中田慶子・中島美那子・城倉純子各会員
	15:25～15:45	上野千鶴子さん著書販売 & サイン会
	15:50～16:30	**分科会まとめの会**　　司会　奨学事業担当理事　窪田憲子
閉　　会	16:30	挨拶　副会長　牧島悠美子

基調講演（要約）

東京大学名誉教授・認定 NPO 法人 WAN 理事長　**上野千鶴子**

教育・ジェンダー・共生　―あらゆるハラスメントを乗り越えるために―

菅野勝男氏撮影

こんにちは。「おひとりさま」の上野千鶴子でございます。

今年の東京大学入学者の女子率は18％でした。入試不正のせいではなく、親が娘に教育投資をしないから受験者が増えないのです。日本以外の先進国では女子の大学進学率が高い傾向があります。かつてフランスの研究者は、娘には労働市場と結婚市場の二つの投資先があり、結婚市場の投資効率のほうが高いから、女子の進学先が教養系に偏るのは合理的選択だと言いましたが、その時代とはもう事情は変わっています。今では東大卒の女子も、就労するのは当然、いかなる働き方をするかを問うようになりました。その結果、90年代以降、女子の進学先として実学･資格志向が顕著です。文系では法学部、理系では医学･保健系に集中し、工学部･経済学部は増えません。東大女子には娘の進学を後押しする母がいて、その多くは OL 経験を有し、職場で女がどんな扱いを受けるか、骨身に沁みて知っているからです。工学・経済という分野は「組織人」にならない限り上昇できない、だから医者と弁護士という高給版“手に職”志向を娘に薦めるのでしょう。

私は今日、皆さんにこの話をどうしてもしたいと思って来ました。今やあらゆる分野で「女を増やせ」が国策ですが、この過少代表制の是正は手段であって目的ではない。ポスト構造主義のジェンダー論を研究してわかったのは、ジェンダーが非対称な権力概念であること、従って女性が男性のように支配者になるのがジェンダー平等のゴールではないこと、私たちが求めているのは「違っていても差別されない権利」だということです。今日のテーマ「共生」とは、「他と違っていても差別されない権利を一人一人が持つこと」です。依存的な存在や弱者を排除せず、尊重する社会を創ることです。ハラスメントとは、職務遂行のために地位に付随する権力を、職務の範囲を越えて濫用することを言います。上司には部下、教師には生徒、親には子ども、介護職員にすら年寄りを思うようにしたいという、権力の濫用への誘惑があります。それを抑制する訓練を、女は育児や介護経験の実践の中から学んできました。

「ケア」という非暴力を学ぶ実践に男たちを巻き込み、社会がそれを分かち合う方向に持っていきたい。国策で女を増やせということよりも、私たちが最終的に到達したい人間の安全保障、安全・安心に生きられる社会を目指して、その実現に向かって進んでゆきたいと思います。

各支部と研究委員会による発表・報告

司会　企画委員長・副会長　**加納孝代**

1. **勝又幸子　全国調査（中間報告）～外国にルーツのある住民と多文化共生の取組～**
   14支部の協力を得て、40自治体の実態を調査しました。日本語の支援が必要な子どもと保護者の高校進学相談態勢には地域差があることが明らかになりました。日本語教育推進法の施行を機会に、一層効果的な支援の仕方を検討し、政策提言につなげたいと考えています。
2. **中田慶子　地域での DV、ハラスメント、性暴力防止にどう取り組むか**
   「DV、セクハラ、性暴力」は、いずれもジェンダーに基づく「力による支配」であり、社会の暴力容認文化がそれを助長しています。DV は子どもへも深刻な影響をもたらします。国や自治体の施策を充実させることと、未然防止のための教育が重要です。
3. **角田みどり　「岡山市の女性と男性」～ジェンダー統計から見えてくるもの～**
   岡山支部会員が中心メンバーである統計研究市民グループと岡山市が協働して「ジェンダー統計リーフレット2017」を発刊し、「岡山市の女性と男性」の格差を「見える化」しました。女性の活躍推進には、「ジェンダー統計」の充実が必要であることを報告しました。
4. **中島美那子・平塚裕子　家庭科教員への調査から見える現状と課題**
   JAUW 教育委員会（当時）が行ない、発表した、2014年度調査報告書「ジェンダー平等の視点から家庭科教育を考える」を取り上げ、その中の家庭科教員への調査を再分析しました。（中島）
   家庭科教員免許取得志望大学生のジェンダー観を上記中島氏の研究と比較対照しながら報告しました。（平塚）
5. **GWI 百周年ジュネーヴ世界大会参加者による報告　CIR 鈴木千鶴子他**
   「平和は教育から（Peace through Education）」のテーマのもとに開催されたカンファランスでのJAUW会員による4件の発表と、多言語・多文化・多民族共生社会で永世中立国でもあるスイスの素顔に親しんだ周遊の旅を中心に報告し、GWI と JAUW のミッションを確認しました。

※報告書は例年通り年度内に作成します。会員外の方には実費と送料負担でお頒けしますので、事務所までお問い合わせください。

第33回ジュネーヴ GWI 総会・100周年記念大会

「Peace through Education」を胸に刻んで

会長　鷲見八重子

GWI（Graduate Women International, 大卒女性インターナショナル）は、私たちにとってはIFUW（国際大学女性連盟）として慣れ親しんできた国際組織です。1919年、第一次世界大戦直後に英国ロンドンに創設され、瞬く間に世界各国に広まりました。日本は1954年に加盟して以来、故高野フミ氏（1983-86）および青木怜子氏（2001-04）が会長職に就かれ、その活躍ぶりは今なお敬愛の念をもって語り継がれています。

このたび創立100周年を迎えるに際し、Geeta Desai会長のリーダーシップのもと本部の役員たちが総力をあげて準備･運営にあたり、加盟61か国のうち50か国から400名あまりの参加と発表されました。日本からは32名が思い思いの計画により各地から集合し、なかには国際会議若手参加支援の学生さん（国内奨学生・アメリカ大学院留学中）や、ジュネーヴでお孫さんや家族あるいは旧友との再会を果たした方たち等々、さすがヨーロッパの中心的国際都市であることを実感しました。

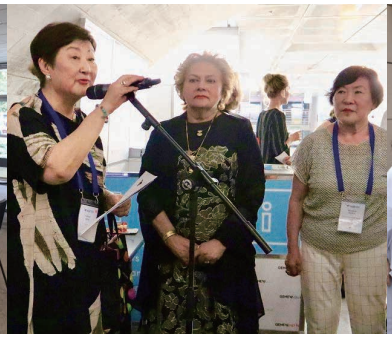
7月25日の開会式の夕刻、100周年記念祝賀会において、JAUWからGeeta会長に謝意を表し、葛飾北斎の名作「神奈川沖浪裏」（富嶽三十六景）の額入り（アダチ版画研究所より寄贈）を贈呈、次いでお祝い金10万円を国際奨学委員会への指定寄付として贈呈、そして平田恭子会員のピアノ伴奏で「ふるさと」を全員で歌いました。奨学金のプレゼントが一番喜ばれたらしいことは、想像に難くありません。

総会で議決権行使にかかわった評議員（正副6名）、ワークショップ、ID（学際）セミナー、ポスター発表を好評裡に終えられた方々、さまざまな行事に積極的に参加しJAUWの存在感をアピールした参加者たち、皆さまのご協力とご支援に深く感謝いたします。詳細については、鈴木CIR理事はじめ参加各位の臨場感あふれる報告をご覧ください。

最後に、4日にわたる総会・記念大会、さらにJTBスイスの旅を含め、一同そろって事故もなく元気に帰国したことをご報告できますことは望外の幸せです。永遠のテーマ「平和は教育から」を胸に刻み、総会の成果を今後の活動に活かしていきたいと願っています。

JAUW 会員による発表　7月27日　全発表数66件

1. 東日本大震災災害地支援事業の終了報告を兼ね、若者への教育支援が地域に平和をつくることを参加者と双方向で討議した：「災害時のネットワークに活かされるGWIのミッション」（青木怜子・高田武子・穐田信子）
2. 2018年度JAUW公開シンポジウム「教育・ジェンダー・共生―誰ひとり取り残さない共生社会を創るために―」報告書に基づく発表：「平和共生のための教育目標をどこに定めるか―JAUWシンポジウムから」（鈴木千鶴子）
3. 東日本大震災の実体験に基づき、防災に関する知見を2017年度の「災害を語る会」にも言及し、口頭で発表：「大卒女性は減災のために何ができるか」（平田恭子）
4. 世界で唯一の戦争被爆国日本の長崎から世界へ広がり、ノーベル平和賞にノミネートされた高校生主体の活動を紹介：「核廃絶を訴える高校生平和大使・一万人署名活動を世界へ拡げるアクターとファクター」（鈴木千鶴子）



GWI100周年「未来は存在しない」の意味を考える

CIR　**鈴木千鶴子**

総会、祝賀会、カンファランス、GWIデーと続いた行事に参加し、世界各地からの女性たちと、先輩たちの一世紀にわたる足跡と成果に理解を深めると共に、今後の一歩をどう踏み出すかを考える機会となった。

特に、国際赤十字赤新月社連盟の若手アーラシィ・クリシュナンのプレゼンは、示唆に富んでいた。彼女は、VGIF後援のヤング向けの講演でも参加者を鼓舞したということであった。タイトルが“将来を展望する”で、自分は演者の将来・未来像を聴くことを期待して力強い話に臨んだ。ところが、「未来を予知することはできない。なぜならば未来は存在しないから」とキッパリと謳われ、驚いた。その意味を「この世の終わり」―すなわち、現状に対する警鐘と受け止め過敏に反応した。冷静に考えると、未来は現在未だ来ていないので真っ当な表現であり、過剰に悲観的になる必要はない真理である。実際、彼女は「(既成の未来はあり得ないが) 既存の未来という概念にかわる“幾つか可能な未来”を、“予報”し準備することはでき、すべきである」と、話の趣旨を明言した。未来・将来は予想するものではなく、“創造”していくもの、という呼びかけであった。従って、続く話は、天気“予報”さながらに、データに基づく証拠を示しながら、信条とする非植民地主義とフェミニスト視点で、“人道主義的未来学者”としての見解を述べ切った。要約すると「経済、社会、環境も急速に変化する今、誰一人取り残さず共に輝く持続可能な世界を実現するカギを握るのは“ボランティア”と“若者と女性のリーダー”である。そのために、長期的見通しの下に思慮深く構造化された行動計画の策定が必要」、ということであった。

GWI加盟のNFAは、女性によるボランティアである。どこまで構造化できるかは先の課題として、何に取り組むべきかは総会で合意された次の行動決議8項目に示されている。①多様な教師の採用・配備②女性の教育による平和構築③人権教育としての性とリプロダクティヴ・ヘルス教育④女性へのSTEM教育⑤難民と、女性と子どもの移住者の人権⑥難民と外国人保護申請者に対する公正で差別のない管理運営⑦職場におけるセクシャル・ハラスメント⑧グローバル目標としての持続可能な開発目標（SDGs)。これらは、まさにJAUWが「教育・ジェンダー・共生」のテーマの下にこの2年間取り組んできた諸課題と合致する。

今後、行動決議の集約である“SDGs”を中心に、詳細を検討し構造化を目指すことが課題となろう。

GWI BOARD 2019-2022　新理事会

会長：Terry OUDRAAD（オランダ）
副会長（会員担当）：Eileen FOCKE-BAKKER（オランダ）
同（教育提唱担当）：Louise MCLEOD（アメリカ）
同（資金調達担当）：Basak OVACIK（トルコ）
同（法務担当）：Veena BATHÉ（インド）
同（マーケティング担当）：Glenda HECKSHER（メキシコ）
財務：Katharina STRUB（スイス）

さらにJAUWからイレーヌ賀集会員がプロジェクト開発委員として新たに任命された。なお、総会で日本代表として投票や決議案の討議･採決にあたったのは、（正）鷲見八重子、藤谷文子、鈴木千鶴子、（副）青木怜子、三木谷節子、岡崎優子であった。

GWI100周年記念大会に参加して

Columbia University　**向山順子**（賛助会員・在米）

2019年7月25日から28日に開催されたGWI100周年記念大会にヤングメンバーとしてご支援をいただき参加した。スイスというと山並みの美しい高原地帯というイメージであったが、真夏のジュネーブは連日の35度の猛暑であった。しかも、ほとんどの公共施設、レストランには冷房機器がなく、夏はダウンジャケットが必要なほど冷房を効かせるのが当たり前のアメリカとの文化の違いに驚いた。

GWIではyoung member workshopに参加し、各国の参加者とグループワークなどを行った。皆、楽しみながら発表するのが上手く、聞いていて面白かった。議論は本大会のテーマでもある教育についての内容が多く、これまで医療や医学研究分野の学会にしか参加したことのない私には新鮮で、広く物事を考えていく上での良い刺激になった。このような貴重な機会を与えていただきました大学女性協会の皆様に心より感謝申し上げます。

GWI 総会に初めて参加して　岡山支部　谷川紀子

100周年記念祝賀会にて
(筆者・右)

大会初日、ジュネーブ大学の大講義室に足を踏み入れた瞬間、会場全体に渦巻く参加者の熱気に圧倒されてしまいました。

特に衝撃を受けたアジェンダが2つあります。1つは、貿易とジェンダーに関する討論会です。教育や平和、女性の活躍を高めていく貿易の役割に関する討論です。教育を受けることで、最も弱い女性たちが経済的自立への一歩を踏みだし、経済の活性化に繋がっていることを実例を挙げて伝えてくれました。その後の WTO への訪問も千載一遇の機会でした。もう一つは紛争地帯出身の女性として、安全保障における女性の役割を理解し、若きリーダーとして活躍しようとしているAdiba Qasimさんの話です。祖国を追われた女児への教育の重要性を訴えられました。

大会を通して、世界の衝撃的な「現実」を垣間見させていただきました。「知ること」は行動の第一歩です。そして、「教育こそが世界を変えられる唯一のもの」であることを再確認しました。私の目を世界に向けてくれた GWI 総会に参加できたことを誇りに思います。

実際に観ること・聴くことの魅力　奈良支部　中道貞子

大学女性協会に入会して間もない2018年初夏、GWI100周年記念大会開催を知り、テーマ「平和は教育から」に惹かれて参加を申し込んだ。

イラクの紛争地から逃れ、今は若いリーダーとして活躍している女性の「モスルは美しい街だった」という言葉に、「昔は緑豊かだった」と故郷を想って涙ぐんだアフガニスタンの友人が思いだされた。男たちの野望の犠牲になるのは、いつも弱い立場の子供や女性たち。ニュースでは伝わらない女性の話を聴き、女性ならではの視点で、できることが何かを考えていく必要性を感じた。

リトアニアの女性から聴いたエピソードは、育児休暇中の5人の男性が協力し、1人が15人の子供たちの面倒を見ている間、他の男性たちは好きなことをするというものだった。ウガンダから参加の一人息子の母親という女性に、1家族の平均的な子供の数を聞くと「私たちのカルチャーではわからない」と。一夫多妻であることを失念しての愚問だった。彼女は付け加えて、「子供のいる女性は決してこのような場所に来ることはできずに家に縛られている。私はシングルマザーだから、ここに来られるの」と。

WTO 訪問では、ロビー活動が行われる場所の雰囲気を味わえたことも印象深い。様々なものを観、色々な人の話を聴き、学ぶことの多い充実した参加であった。

GWI 総会　旅の部　事業担当理事　藤谷文子

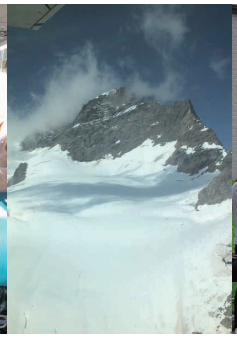
7月29日～8月3日（スイス周遊の旅）

5日間の会議を終え13人プラス JTB 添乗員と現地ガイドの15人でのスイス周遊の旅である。当初の予定では多数参加を見込んでいたのでデラックス大型バスでの移動はみな座席を使い放題、ゆったり旅となった。ジュネーブ出発後美しいレマン湖を横に眺めながら小さな村ニヨンを散策、その後トロシュナ村のオードリー・ヘップバーンのお墓を訪ね、あたりいっぱいに広がる田園風景に一同感動！！ローザンヌの街に入りローザンヌ大寺院とオリンピック美術館を見学。その晩はローザンヌ泊。

翌日は湖畔の町から一転して山間に入っていく行程である。シオン城見学後ラボー地区のワイナリーでの試飲、モントルーの街歩き後、湖の風景から一転して山に入りホテルへ。夕暮れのグリンデルワルドの街をそぞろ歩きながら夕食へ。

翌日アルプス登山鉄道、ユングフラウ鉄道でクライネシャイデックへ、エレベーターに乗り継ぎユングフラウヨッホのスカイテラスに到達、みな登山証明書をゲット。その後迎えのバスの待つラウターブルネンへ。当初宿泊予定だったエンゲルベルク男子修道院見学、みなそこで作られたチーズを求めお土産に。その晩はルツエルン泊、世界遺産の木造カペル橋の美しいこと！！

感動いっぱいのルツエルンを後にバスはドイツ国境に近いラインフォールへ。豪快な流れにみな息をのむ。いよいよ最終目的地のチューリッヒ。見どころ満載なのだが大聖堂のジャコメッティのステンドグラス、聖母聖堂のシャガールのステンドグラス等を見るだけで終わったのは悔いが残った。尚この旅程企画は元IFUW（現GWI）会長青木怜子会員のアドヴァイスにより素晴らしいものになったことを付け加えたい。



文化交流委員会主催　留学生との交流会

「林望氏解説、能と狂言の鑑賞会」に参加して

東京支部　**齊藤智恵**

まだ夏の暑さの残る9月14日、文化交流委員会主催で、9名の留学生と、会員他一般参加者を含め総勢27名参加の「留学生交流会」に出席。会食を楽しみながらの歓談、自己紹介、鑑賞注意事項等があり、能楽堂にて狂言･能を鑑賞。始めに林望氏の能の解説～鄙の風流ということ～狂言、船渡聟は酒好きの船頭、実は舅と聟の滑稽な遣り取り。続いて能、錦木は陸奥のある里の風習を基に、思いを掛けながら三年、遂げられなかった男の恨み、後シテで男の亡霊が僧の回向で望みがかなったと黒頭で舞う見応えのある黄鐘早舞。隣席の中国の方との良い出会いに恵まれた。

終演後、稽古舞台を前に林氏から能舞台の説明があった。現在能舞台は劇場の中にあるがもとは能舞台の上には青空が広がっていた。能舞台は「この世ではない所」神聖な場であり、能舞台に上がる時は白い履物を履くとのこと。楽屋から能舞台の一部である鏡の間へ。大きな鏡の前で諸役は装束を改め、心静かに出を待つ。橋掛り前の揚幕は地水火風空の五行を表す五色。橋掛り横の白洲には舞台から数えて一の松、二の松、三の松がある。後方鏡板に老松、左手には竹の絵。面を付けると視野が狭まるので、正面右の目付け柱を目当てに所作をするなど。左の脇柱側には地謡、ワキが着くので脇座と言いここは見所と同じ扱いになる。

終わりに留学生と希望者は実際に面を着ける体験をして楽しんだ。

林望先生を囲んで

文化交流委員会と奈良支部との協働事業

留学生と楽しむ上方落語鑑賞会

奈良支部長　**久留島涼子**

奈良支部では数年前の「和食の会」に引き続き第2回目の留学生との文化交流事業として上記の会を開催しました。

落語は日本語の面白さ（落ち）や日本文化（生活感覚）の理解があって初めてその面白さが分かるものです。来日している留学生の日本語の理解度はかなり高いと思われ、それを前提にして更なる日本語、日本文化への親しみを楽しみながら増進させる一助に落語は最適であると思われます。そこで在奈良の2、3の大学に希望者を募ったところ、奈良女子大学大学院の留学生4名と日本人学生2名の希望者がありました。

落語を介して学生同士の交流ができればと思い、2名の日本人学生も同行することにしました。9月15日（日）天満天神繁昌亭の開場13周年記念公演に、奈良支部会員、本部役員を加えて総勢17名での鑑賞会となりました。はたして学生さんは楽しんで頂けたのか。昼食後のスピーチによると8演題中2演題は理解出来て面白かったと言うことでした。まだまだ本質に迫るのは難しいところもあるかと思われますがひと安心した1日でした。本部からは4名の役員の方にご参加いただき感謝しています。今後本部及び支部主催の留学生イベントへ、すべての支部から参加できるようなシステムができれば地方の留学生にとって画期的なことになると思います。

留学生に日本人学生も加わった奈良支部の交流会

文化交流委員会と大分支部との協働事業

留学生と和の心と香りの文化をたずねる会

大分支部長　**内田芳子**

晩秋のお天気に恵まれた11月10日（日）、留学生との交流会をホテル日航大分オアシスタワーで開催しました。会場では、テーブル設置のハプニング、福岡支部は福岡マラソンやJRの遅れなどのトラブル発生、熊本支部は会員の発熱とハラハラドキドキの展開でしたが、福岡から全員無事到着。会員皆様のご協力があってほぼ定刻に開会できました。

大分支部は会員8名と留学生4名、福岡支部4名、熊本支部2名、本部役員3名をお迎えして、計21名での会となりました。マレーシアの留学生のプレゼンテーションに始まり、スリランカ、韓国、中国の留学生の自己紹介と続き、各テーブルで昼食を共にしながらの多文化交流。おいしい食事は心を豊かに満たしてゆき、一気に人との距離を縮める。終始和やかな笑いに包まれました。午後は留学生と共に「大分香りの博物館」で調香体験。令和ゆかりの太宰府政庁と万葉の時代を辿る「企画展」を観覧。古代からの香りの歴史をたどり、「令和」の香りを堪能しました。留学生と共に行動して感じたことは、どの留学生もみんな日本が大好きで、日本という国、その地域に溶け込んで頑張っているということでした。支部で開催する留学生との交流会等に留学生、会員誰でもが自由に参加できるなら、人と人との輪はもっとひろがり、文化交流に留まらず多国間の平和の架け橋となることも夢ではないと彼らに明るい未来の姿をみました。実現に必要な経済的支援策の検討を希望します。

福岡支部、熊本支部からも参加。留学生と和やかに会話が弾んだ

Ｊカフェ報告　生涯学習委員会から

第4回 2019年7月12日　講師：竹内みち子

日米女性労働運動
～第1次世界大戦から占領期まで～

講師の竹内みち子氏は、「米軍占領期の女性史」を専門とされるカリフォルニア州立大学ロングビーチ校歴史学部准教授です。2018年9月JAUWのHP経由でメールを頂いたことが、今回のお話を聞くきっかけとなりました。(会報265号参照)。氏は高校卒業後、冷戦後の米国での新しい社会秩序や政治体制を学びたいと渡米。現在教鞭を執っておられる大学の国際関係学部でシャノア･シーバス教授に出会い、明治時代のフェミニズムや労働運動を学び、その後教育を通して社会の差別を無くしたいとの強い思いから研究の道に進まれました。「占領期の日本女性解放は、どのような背景と過程からもたらされたか」をめぐる当日のお話から、3点を紹介します。

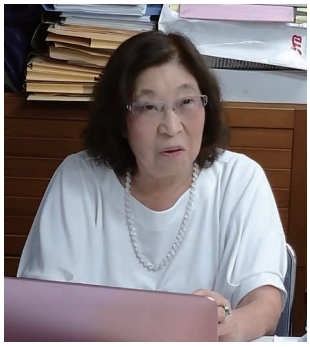
1. 第1次大戦の終り（1918年）頃、「女性解放とは何か」という議論が盛んになった。「女性労働保護法」を策定し、出産等で失職しないよう女性を労働者として定義し、自身の給料で自立する「経済的解放」を目指す一派があった。1923年には連邦議会に「男女平等憲法修正案」が提出され、この「絶対的な男女平等」を支持する一派と、先の一派が1923年以降、米国のフェミニストの間で激しい対立を繰り広げた。ハーバード大学ナンシー･コット教授によれば、「この絶対的男女平等と女性保護のどちらが女性解放につながるかとの議論が20世紀最大のフェミニストたちのジレンマ」である。
2. 占領期から戦後の日本の女性政策は「女性労働保護」を主張するグループによって展開された。「女性労働保護」を戦前から主張・支持していた日本側の女性リーダーが加藤シヅエ、山川菊栄、藤田たき、加藤たか、市川房枝らである。彼女らは戦前、米国の女性労働保護を主張するグループと密接な交流があった。
3. 山川菊栄氏が戦後、初代の労働省婦人少年局長になったという流れは日米の「女性労働保護」を主張するグループとGHQとの繋がりから当然の帰着とも言えそうである。

ご自身も子育て中の竹内氏から、アメリカでは産休制度や賃金体系などの問題が顕在化しており、出産・育児が大変でない制度を作るのは今なお100年前から続くフェミニストや女性労働運動家の目標のひとつ、とお聞きしました。女性解放がまだ世界的な難題という現実は、道遠しということを再確認することができた講演でした。竹内氏に深く感謝いたし、今後のご活躍をお祈りいたしたいと思います。

記：生涯学習委員長　嶋田君枝

第5回 2019年9月29日　講師：山瀬恵子

在日外国人生活者の支援
～高度人材ではない普通の生活者を対象として～



筆者は1988年から16年間、アジア福祉教育財団難民事業本部大和定住促進センターという外務省の外郭団体でインドシナ難民相談員として雇用されていました。

1975年のベトナム戦争終結後、インドシナ半島のカンボジア・ラオス・ベトナムの国民は社会主義への政治体制の変革を恐れ、海へボートで、陸路で隣国タイへと逃げました。この三国から流出した人々をインドシナ難民と言い、全世界で300万人と言われています。

この難民を11,319人受け入れたことが、日本にとっての大きな一歩となり、現在の外国人施策に繋がっていると考えます。この時は三食付き教育宿泊施設で4ヵ月日本語の勉強をし、小学生の習う漢字の半分の約500語を学習して彼らは日本社会に定住していきました。仕事は大企業ではなく、中小企業でいわゆる3K（汚い・きつい・危険）でした。年間訪日客が50万人位の当時、彼らは珍しい存在でした。（今や訪日客は4000万人弱、外国人生活者は280万人）

1990年には日系2-3世がインドシナ難民以上に来日しましたが、日本語教育や生活指導が自治体に任されたため、負担が重く、その後はその負担軽減を図り高度人材に絞った受け入れが続きました。しかし今日の少子高齢化による人材不足解消のため、また個人情報保護法で多くの人が外国人と話す必要に迫られ、偏見が少なくなり、海外旅行が一般化し、日本人の内なる国際化が進んだ結果、異文化を受け入れる日本社会の許容度が大きくなり、2019年度より外国人単純労働者にも門戸を開きました。

意欲も能力もある外国人に日本が選ばれるにはやはり外国人の言葉の問題・教育の問題・生活環境の問題を総合的に支援する「外国人庁」を作ることが望ましいと筆者は考えています。

在留外国人の支援として

1. やさしい日本語を使って話す。
2. わからない時は必ず紙に書いてもらうことを教える。
3. 在留カードで在留資格を確認すること。
4. 不法滞在者は支援できないことをきちんと伝える。

これらの事をお勧めします。

神奈川支部　山瀬恵子

Goodman 教授の JAUW 会報調査報告

東京支部　**香川せつ子**

本年8月、Joyce Goodman 教授（イギリス・ウィンチェスター大学）がJAUW本部事務所を訪れ、協会草創期の活動について資料調査を行いました。Goodman教授は英国大卒女性連盟（British Federation of Women Graduates）の会員であり、7月末のジュネーブにおける GWI（Graduate Women International）100周年記念大会では、GWIの前身である国際大学女性連盟（International Federation of University Women）の初期の歴史について報告されています。

女性とジェンダーの教育史研究の最前線を走り続ける Goodman 教授の関心は英米からアジア太平洋地域にわたり、近年は粕谷よし、河井道、井上秀など日本の女性高等教育パイオニアにも及んでいます。なかでも、粕谷よし JAUW 元会長のコスモポリタン的な言動に着目し、それを分析した論文を学会誌に発表しています。粕谷は1919年にアメリカのウェルズリー大学に留学、さらに1929年にコロンビア大学ティーチャーズ･カレッジに留学して、日本の女子教育者の視点から「英・独・米の女子教育」を比較考察する論文で博士学位を取得しました。帰国後津田塾大学の第三代学長となり、1951年度と1952年度に JAUW 会長を務めています。

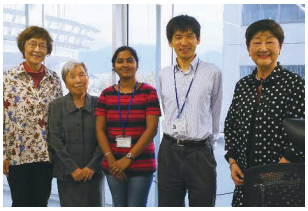
Goodman 教授は三年前の来日時に津田塾大学や日本 YWCAで文献調査をしましたが、JAUW本部での調査は今回が初めてのことです。協会創立時の会議資料や、1949年創刊号から1960年までの「会報」の記事を丹念に閲覧されました。閲覧には穐田信子広報委員長が付き添われ、同教授が関心を示した記事のひとつひとつを英語で丁寧に解説いただきました。「会報」のバックナンバーは、全巻が協会ホームページにも掲載されており、戦後日本の女性の高等教育や日米女性大学人の交流を伝える貴重な資料となっています。JAUW 本部事務所が保管する古い記念写真からも重要な情報を得て、有意義な調査となりました。その成果がGoodman教授執筆中の著書に結実し、女性の大学教育の国際的連携に寄与することを期待します。

JAUW 本部での調査の翌日に津田塾大学で開催された研究セミナーで、日・米・英の女性教育の交流について講演する Goodman 教授

2019年度国際奨学生の来日報告

国際奨学委員長　**岩村道子**

10月に国際奨学生2名が来日し引受先の研究室での研究を始めました。国際奨学委員会ではこの時期に当該支部の方たちをお誘いして研究室を訪問し、指導担当教員・奨学生との面談や研究施設の見学などをおこなうことにしております。奨学生は両人とも来年3月末まで滞在予定で、研究成果報告会は3月7日（土）午後に開催致します。



Ramu Shwetharani博士は、10月1日に信州大学先鋭材料研究所に到着し、堂免一成特別特任教授と久富隆史准教授の指導で「光触媒を用いて水から水素を発生させる方法」について研究を開始しています。15日に鷲見会長、三田コト長野支部長と岩村で研究室を訪問し、Ramuさんから研究実施計画の説明を受けた後、久富准教授の案内で研究室を見学しました。Ramu さんはインドの大学にはない最先端の装置を駆使しての実験を意欲的に進めているようでした。会長と支部長は研究室訪問を楽しまれ、また、恵まれた研究環境に安心なさったとのことでした。

Zin Idd Idd Shwe博士は11日に来日。京都大学農学部の神崎護教授のもとで、「ミャンマータニンサリ自然保護区における絶滅危惧樹木種」についての研究を開始しました。到着直後の11日の午後、高橋侑子京都支部長と4名の支部会員、ミャンマーでマングローブ植林活動を長年展開している向後紀代美さん（東京支部）が、神崎研究室を訪問し神崎教授、Idd Idd さんと面談し、農学部の研究施設などの見学をいたしました。なお、岩村は急用のために欠席いたしました。委員会と支部との親睦もご計画くださいました京都支部のみなさまに心から御礼申し上げます。

これからもご協力を !!!

70周年記念募金のご報告とお礼

副会長　**牧島悠美子**

2019年7月1日～10月31日 寄付者人数 11名　寄付金額 ￥301,613
上記期間中の寄付者ご芳名（敬称略・支部別・五十音順）
（**金沢支部**）木梨由利（**神奈川支部**）穐田信子、鷲見八重子
（**神戸支部**）後藤安子（**長崎支部**）鈴木千鶴子（**国際奨学委員会**）
（**一般**）加藤聖子、矢島恭子、中村通子（**匿名希望**）2名
2016年11月の募金開始以降、2019年10月31日までの3年間で寄付者延べ人数 606名、寄付総額 ￥9,235,313 となりました。心より感謝申し上げます。目標の1000万円まであと少しです。公益目的支出計画の実施も残り10年となり、終了後の事業や事務所保持について検討を迫られています。活動継続には皆様のご理解、ご協力が必要です。同封の振替票または下記の口座振込により、引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。

●郵便払込 / 振替　00130－0－587701
　加入者名：一般社団法人　大学女性協会
●ゆうちょ銀行　店名　〇一九（ゼロイチキュウ）
　店番　019　当座　0587701

正会員の皆さまへ　役員候補者推薦のお願い

2020年5月第9回定時会員総会の終結をもって、JAUWの理事会の現理事および監事の任期が満了となります。

役員選考委員会は、「役員選考委員会に関する規程」に従い、定款第5章第22条および第25条により、正会員の皆さまに、次期2020・2021両年度の理事・監事候補者の推薦をお願いし、その選考結果を会長および理事会に報告することになっております。

つきましては、別送の参考資料をご参照いただき、2020・2021年度（一社）大学女性協会役員候補者推薦用紙にご記入のうえ、返信用封筒で**2019年12月15日**までにご返送くださいますようお願い申し上げます（当日消印有効）。

大学女性協会活動の根幹を担っていただく役員の、2年に一度の大切な改選です。多数の皆さまの熱意あるご推薦を、心からお願い申し上げます。

役員選考委員長　西村寿美子

2019年度国際奨学生の研究報告会

国際奨学生2名の研究報告会を以下のように開催いたします。皆様のご出席をお願いいたします。　（国際奨学委員会）

記

日　　時：3月7日（土）午後1時から4時30分
場　　所：アルカディア市ヶ谷
会　　費：1000円（当日、申し受けます）
申し込み：3月2日（月）までにJAUW事務所まで
fax：03-3358-2889　E-mail：jauw@jauw.org

理事会から

► NGO/CSW64への参加支援者を長崎純心大学1年の田中優希さんに決定しました。

►無事にセミナーが終わりました。ありがとうございました。今回のセミナーに遠くは兵庫、茨城から大学生・賛助会員・男性などたくさんの方々が参加されました。

►丸大食品のカタログを同封致します。会の収益のため、ご協力をお願い致します。

丸大食品　心に残る贈り物

【HA-104】

【HA-102】

≪丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます≫
お歳暮・お中元時期のほか、記念品・新築祝・開店祝
御礼・内祝・快気祝・各種景品等ご利用下さい。

丸大食品株式会社　首都圏特販課　　担当：橋本
〒135－0051　東京都江東区枝川2－23－2
TEL03(3647)3270　　FAX03(3647)3274

JAUW 新春のつどい

恒例の「JAUW新春のつどい」を下記のように開催いたします。

第1部の国内奨学金贈呈式は、JAUWの公益事業の中で大切な事業の一つです。将来女性のリーダーとして活躍を期待される奨学生の希望と意欲あふれるスピーチは、いつも私たちに感動を与えてくれます。

第2部は華やいだ雰囲気の中で会員の皆様、奨学生の方々とご歓談ください。また今年はお楽しみとして「福引き大会」を復活いたします。

つきましては、未使用のもので新春に相応しいお品がございましたらご寄贈していただきたくお願いします。
多数のご参加をお待ちいたしております。

日　　時：2020年1月11日（土）11：00～14：30
場　　所：新宿　京王プラザホテル　南館4F「錦の間」
新宿区西新宿2-2-1　03-3344-0111（代表）
プログラム：第1部　2019年度　国内奨学金贈呈式
第2部　懇親会　及び　福引き大会
会　　費：10,000円
申 込 先：（一社）大学女性協会　　本部事務所
Fax：03-3358-2889　　E-mail：jauw@jauw.org
申込締切：2019年12月16日
振込締切：2019年12月26日
振 込 先：三菱UFJ銀行四谷支店
普通預金：口座番号1077777
別口　一般社団法人 大学女性協会　理事 鷲見八重子

尚、キャンセルは3日前までとさせていただきます。
※当日、収益事業委員会のバザーを致します。

（一社）大学女性協会

観劇と催し物のお知らせ　収益事業委員会

「雅楽」於：サントリーホール
日　時：2020年1月19日（日）14：00開演
S席6,000円　『管弦』『舞楽』
「初春歌舞伎」於：国立大劇場
日　時：2020年1月27日（月）12：00開演予定
一等B席6,500円　尾上菊五郎
☆観劇／催し物／岩波ホールのお問い合わせはJAUW事務所まで
〈楽天アフィリエイト〉
「楽天」でお買い物をなさる時は、先ずJAUWホームページの「RAKUTEN」ロゴをクリックしてください。どなたでもご利用いただけます。ご協力をお願いいたします。

新入会員　理事会承認　2019年7月～10月

新潟支部 小野美知子　東京支部 夏　瑛　東京支部 西尾　静恵
神奈川支部 石井　朋子　岡山支部 木林　京子　岡山支部 田畑美和子
長崎支部 関　きみ子

訂正とお詫び：
第267号5ページ上から2行目
パネリスト：森川淳子→副コーディネーター：森川淳子
同3行目　端本和子→パネリスト：端本和子
関係者の方々にお詫び申し上げます。

一般社団法人　大学女性協会
〒160－0017　東京都新宿区左門町11番地6－101
電　話　03－3358－2882　　ＦＡＸ　03－3358－2889
http://www.jauw.org　　E-mail：jauw@jauw.org
発行人　鷲見（すみ）　八重子　　編集責任者　穐田　信子
発行日　2019年11月25日